

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100452		
法人名	NPO法人グッドシニアライフ		
事業所名	グループホーム我家我家		
所在地	多治見市小泉町4丁目228番地		
自己評価作成日	令和7年9月1日	評価結果市町村受理日	令和7年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2171100452-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

関係各所ではまだまだ面会制限など行っている中でwithコロナとして、ご家族様の面会やご利用者の外出についても積極的に行ってきました。認知症の方にとってご家族、知人とのふれあいはとても大切なものだと考え引き続き行っていきます。さらに、日頃の認知症予防の一環として、引き続き学習療法への取り組みや日常生活の中での家事活動などを通して少しでも予防ができるよう取り組んでいます。スキルアップの一つとして資格取得支援も積極的に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街に位置しており、開設時は地元住民の反対意見もあったようだが、積極的に交流を図り理解に繋げる事が出来ている。今では、住民の応援や協力を得るまでになっている。また、他社ではあるが、隣接するショートステイ事業所と災害訓練等で、協力関係ができています。利用者はホールの大きなテーブルに集まって、トランプやパズルをしたり、歌を歌ったりしながら、職員と一緒に楽しい時間を過ごしている。食事は、職員がオープンキッチンで手作りしており、調理中の匂いがホール中に漂い、家庭的な雰囲気が感じられる。準備中の音や匂いが利用者の食べる楽しみを引き出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各事務所に置いて理念の共有を行い、掲示をしている。	理念は各階の事務室に掲示し、職員は常に目にし実践に活かしている。新人職員は入職時の研修において理念を理解し、実践に繋げている。利用者が自分の家にいた時のように、穏やかに暮らせるよう雰囲気作りに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過から進むため、面会、ご家族との外出等積極的に進めている。また、子供110番の登録につき、通学途中の子供たちがトイレを借りに来るなど地域での周知も進んでいる。	自治会には協力金を収めている。コロナ禍以降、自治会行事は行われていないが、利用者が散歩時には、住民と挨拶や会話を交わし、交流の場を広げている。また、子供110番の役割りを担ったり、住民が介護相談にも訪れるなど、地域とのつながりを大切にしている。	隣接する他法人の利用者サービス事業所と合同で、災害訓練を行なっている。自治会役員や民生委員などの参加を呼び掛け、地域との協力関係をさらに強化するための工夫に期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を再開してから出席率が平均してよくなってきている。会議の中では質問を受け付けながらその都度答えている。家族に向けての勉強会なども行っている。	隔月で運営推進会議を開催し、福祉課や地域包括支援センター、利用者と家族も参加している。会議ではサービス提供状況や研修報告、行事報告などを行い、意見を聞いている。協力医による認知症についての動画を用いた講演も行っている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所よりメールでの伝達及びこちらからも必要時にはメールまたは直接電話にて連絡できる体制がある。	市担当者の異動時には、必ず職員と顔合わせをし、必要に応じてメールまたは電話で事業所の実情について報告や相談をしている。行政が広報用受信機を市内福祉事業所に設置し、熱中症や食中毒等の警報が一斉に流される体制がある。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング内で行える時には実施し、周知を図る為にも資料提供として各職員に資料提供をおこなっている。	委員会を定期的で開催し、ヒヤリハット事例や職員の声を検討課題として話し合っている。身体拘束に関する研修は定期的に行い、ケアに活かしている。今後、身体拘束適正化委員会と虐待防止委員会の議事録を分けて記録していくとしている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常にスタッフ同士で目を配り、お互いに虐待、スピーチロック、羞恥心等に配慮できるように声掛けを心がけている。	虐待防止のための指針及び運営規定の項目にも定め整備している。事例検討会で話し合いながら、不適切ケアについても研修にて学んでいる。職員の残業をなくし、業務平準化を図りながら、ストレス回避にも繋げている。	

岐阜県 グループホーム 我家我家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか制度に関する周知は難しが、常に閲覧できる資料を置いている。岐阜県高齢者権利擁護センターのリーフレットを閲覧出来るようにしている		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時には見学から始まり、書面での説明をしっかりと行うようにしている。契約から入居までスムーズに行えるように支援を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は常にお聞きし、ご家族についても管理者以外のスタッフでも話しやすい環境を作っている。要望も出来る限り反映できるように心がけている。	毎月、家族宛ての利用状況報告として、利用者の様子を詳細に書いた手書きの手紙を送っている。行事やイベントを行った際には、ホームページに写真を掲載している。コロナ禍の外出できなかった状況を徐々に解消し、運営推進会議では、家族からの感謝の言葉も多い。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も現場に入ること、日頃からスタッフとのやり取りを大事にしている。代表についても毎月の管理者会議にて意見交換を行っている。	管理者も現場に入り、日常的に職員とコミュニケーションを図りながら、相談しやすい関係作りに努めている。職員と副主任が、業務の流れについて相談しながら、スムーズに行えるよう変更している。キャリアパス制度に基づき、年2回の個別面談を行っている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	キャリアパス制度に基づき、年2回の個別面談と共に、職員の給与アップに勤めている。勤務についてもそれぞれのスタッフの要望を聴きながら、休みの取りやすい環境を心がけている。	休憩時間や場所の確保、それぞれの希望休の取得がしやすいようシフト作りを行なっている。管理者は、生産性向上に効果的な業務平準化を図るなど、一部の職員に負荷がかからないよう配慮している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモートでの研修も多く開催されている為、時間と都合を確保しながら研修への参加を促している。ステップアップ推奨するため資格取得支援制度も設けている。	職員の資格支援制度がある。協力医の講演やリモート研修への参加を全職員に呼びかけ、参加を促している。また、運営推進会議の資料を研修資料として活用したり、内部研修でタクティールケア等を学び、認知症への理解を深めている。	年間研修計画を見直し、外部研修も含め職員の研修機会を増やしたい。参加した職員は内部研修でアウトプットすることで学びをより深くし、他職員と共有する取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々での連絡などは行っているが、高齢福祉課による交流会などは行われていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者同士の交流が円滑に行なわれるようにスタッフが間に入って、関係性を保っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方がやってみたい、やりたいといった事を常に会話の中でお聴きしながら、出来得る限りの思いに答えるよう検討している。	職員は日々の支援の中で、利用者の思いや意向を把握している。1日の生活の流れは本人の希望に合わせて柔軟に対応し、様々なレクリエーションを行う際には、寄り添いながら見守っている。本人の意向確認が困難な場合は、表情や動作から推測して支援につなげている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフからの聞き取りに始まり、カンファレンスでの検討を通じて御利用者御家族様への理解と協力をお願いしている。	利用者の担当を決めず、2ユニットの全利用者を全職員が対応できるように配置している。介護計画は、利用者個々の情報を業務記録や職員から聞き取り、家族からは、訪問時や電話で思いや要望を聞きながら、計画に反映させている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月に1度の見直しをおこない、その時々合った支援方法を計画に繁栄出来るよう心がけている。ご家族の思いなどもお聞きしている。	職員は、タブレットに記録された申し送り事項に目を通し、情報共有している。3か月毎にケアマネジャー、管理者、主任でカンファレンスを行い、目標の修正やケアの統一について話し合っている。利用者に必要な支援を介護計画で可視化し、支援内容に沿ったケアを行っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ過ではあるが、それぞれの方が思うニーズをお聴きし、日頃の支援に生かせるようにしている。	利用者のニーズを状況に応じて確認し、できる限り柔軟に支援サービスを提供できるように取り組んでいる。病院受診は基本家族対応となっているが、必要に応じて事業所が付き添う支援や、利用者の希望に応じて学習療法を取り入れるなどしている。	

岐阜県 グループホーム 我家我家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ、地域資源の活用についてはコロナ対応があり、積極的な活動はできていない。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を元に、必要時にはご家族との相談にて受診支援を行っている。さらに訪問歯科とも提携をしており、必要に応じた歯科治療及び口腔ケアを提供している。	協力医は月2回、歯科医は月1回の往診がある。緊急時以外の病院受診は家族同行を基本としているが、必要に応じて職員が付き添い、支援を行っている。日々、利用者の体調管理に努め、主治医との連携も適切に行なっている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	逼迫した緊急時には救急搬送を現場にて判断しているが、それ以外は主治医の判断にて受診及び救急搬送の対応をしている。入院期間の相談員ともこまめな関係づくりを行っている。	主治医の指示を受けながら、入院先病院との連携を図り支援している。利用者のサマリーを提供し、病院の相談員と情報交換をしている。退院後もスムーズな受け入れができるよう、必要な情報を入手し、リハビリ指導も受けながら、利用者支援に努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	すべての方ではないが、本来の趣旨に従ってご家族、主治医、その他関係各所と話し合い、市全体での看取りの実施を行っている。その際には同意書を再度交わしたうえで対応している。	看取り指針を整備し、利用者・家族に医療行為の無い看取り支援について説明している。利用者の状態変化に伴い、随時家族と相談している。看取り期に入った際には、再度同意書を交わし、利用者が穏やかに過ごせるよう全職員で対応している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開催が可能な時には年一回、救急救命講習を受講し、それ以外は訪問看護との連携にて処置、対処方法の指導を行ってもらっている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、通報訓練を行い非常時に迅速に動けるように取り組んでいる。非常時に活動の確認が取れるよう見やすい位置に掲示を行っている。	年2回の避難訓練、通報訓練を実施している。BCPは作成済みであり、訓練や研修も行っている。自治会や民生委員の名を連ねた緊急連絡網を整備している。自家発電機の設置もあり、地域の一時避難所となっている。	避難訓練を実施する際には自治会長にも連絡し、地域住民の参加にも期待したい。合わせて利用者の身の安全を図る為にも、防災頭巾などの導入も検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から否定的な言葉には注意し、肯定的な言葉かけを投げかけられるよう心がけている。居室やトイレの使用時にプライバシーの確保の為に”ノック”をしっかりと行い、また、ミーティングなどにおいても勉強会の実施をしている。	入浴や排泄介助時の同性介助については、利用者の希望に応じている。職員は、人格の尊重について学びながら、トイレや居室の入室時は、必ずノックをする事、常に肯定的な言葉かけを心がけ、スピーチロックとないかを意識し、ケアに当たっている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを実施するうえでその都度主旨選択が可能な限りの声掛けを行うように日頃から意識をしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間などはその方のペースやその日の体調に合わせて調整を行っている。一日の流れについても、一人一人の行動を尊重している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目の前で調理をする事で、季節感や調理方法など会話をしながら、その方の食事への興味を持って頂いている。手伝える方には包丁を使用して調理も行ってもらっている。	ネットスーパーで食材を購入し、職員が季節感のある食事を三食手作りしている。行事食は手巻き寿司や五平餅等、楽しみのある献立を工夫している。利用者も下膳や食器洗いなど、出来る人が率先して行なっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食と10時、15時など水分量の記載を行う事で、脱水予防に努めている。食事量についてもその方ごとのプレートを使って毎食確認を行うように心がけ得ている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアのチェックリスト使用して実施している。毎週、訪問歯科、歯科衛生士による口腔ケアを実施している。	毎食後、自主的に口腔ケアを行うことが習慣化している。介助が必要な利用者には、職員が支援し、義歯や歯ブラシの消毒は定期的に行っている。歯科医師、歯科衛生士の訪問があり、肺炎予防としても、口腔内の清潔保持に力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時系列のチェックリストを作成して、排泄のリズムやパターンを確認している。介護用品を使っている御利用者についても、なるべくトイレの出の排泄を促していくよう取り組んでいる。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日の中で入浴ができる時間は決まっているが、入る、入らないについてはご本人の意見を尊重し、無理に実施はしていないが、チェックリストを使用する事で、満遍なく入浴が実施出来るように心がけている。実施時には音楽など流すこともしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や状況を把握して、居室で休んで頂けるような声掛け、誘導を行っている。環境についてもエアコンの使用はしっかりと行うようにしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報は常に閲覧できる位置に保管し、服薬についてはチェック方法を常に見直し、現在はスリーチェック方法で行っている。服用間違いや飲み忘れをなくすようにしている。	薬剤師が配薬し、服薬支援時は、職員によるスリーチェック方法にて誤薬防止に努めている。以前は誤薬事故が多発していたが、現在は服薬チェック表を作り、誤薬事故もない。処方変更時の体調変化がある時は、管理者が主治医に連絡し対処している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別ケアを前提として、それぞれの能力に合った対応方法などを日頃から検討している。	洗い物、洗濯物たたみができる利用者は、職員と一緒にやるなど、役割を持って生活できるよう支援している。編み物や習字等、楽しみごとは職員が担当を決め、SNS等から情報を得るなど、工夫しながら行事を企画している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ホームとして外出レクの実施を行えるよう計画をしている。そのほかでもご家族様との外出についてはOKとしており、定期的に外出をされる入居者もお見えになる。	利用者の重度化や職員の配置の難しさに伴い、外出は家族の協力を得て利用者は外出している。家族と喫茶店に行ったり、一時外泊する利用者もある。今後の外出レクとして、支援計画を立てている。	

岐阜県 グループホーム 我家我家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、お金に対してはご家族管理となっているが、対象者がいる場合は個別管理表を使用して管理していく。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出す事や電話を掛ける事についてはご家族様との協議によりタイミングなどを決めて実施している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力季節感が出るよう、共有スペースには掲示物の展示などを行い、常に空調管理に気を配っている。玄関にはイベント時の写真などが閲覧できるよう掲示し、花壇も使用しながら季節を感じられる工夫をしている。	共用スペースには、利用者の季節感あふれる多くの作品が展示してある。オープンキッチンからは、調理の音と匂いが漂い、食欲増進にも繋がると思われる。家庭的な環境の中で利用者はゲームをしたり、歓談を楽しんでいる。談話室で会話を楽しむ利用者もある。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室は設けてあるが、一人の空間作りとしては居室を前提として、過ごしやすい環境を提供している。中には談話室で会話を楽しまれるケースもある。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には表札を設けたり、居室内では自宅で使用していた物を持ってきて頂いたり、なじみのある環境を整えている。冷蔵庫以外の持ち込みは基本OKとしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	会話の中でご本人がやりたい事を聴きだし、安全にできる事については支援をしている。人としても自信を持って頂けるような取り組みも支援として行っている。		